

まなこう  
力レツジ  
歴史講座

# 島田川流域における 弥生時代の高地性集落

～弥生人はなぜ  
丘陵上に住んでいたのか～



講師  
山口大学  
埋蔵文化資料館  
田畑 直彦 氏

## 島田川流域熊毛地区の 高地性集落

1950～1952年に山口大学は島田川流域を一地域単位と捉えて、縄文～古墳時代を中心に地域史の解明を目的とした調査を実施しました。

調査団の中心メンバーであった小野忠熙(ただひろ)名誉教授(故人)は、丘陵上に立地する周南市安田(熊毛地区)の岡山遺跡や天王遺跡を、比高(高度差)と弥生時代中期末とした断面V字形の溝状遺構などから、『後漢書』や『魏志倭人伝』に記載された動乱と関連づけ、当時の争いや社会的緊張関係を反映した遺跡とし、後の一連の研究で「高地性集落」に分類しました。

その後の研究で、弥生時代中期末の「高地性集落」は上記の動乱とは無関係であること、地域によって「高地性集落」の出現時期が異なるなど、その出現要因は多様であることが判明しています。

この講座では島田川流域における弥生時代の高地性集落を紹介し、天王遺跡、岡山遺跡出土遺物の解説を行います。弥生人はなぜ低地を望む丘陵や台地上に住んでいたのか、いっしょに考えてみましょう。

【日時】 令和6年 **7月21日(日)**  
**13:30～15:00**

【会場】 周南市学び・交流プラザ  
交流室4

【対象】 小学3年生以上  
【定員】 40名程度(申込先着順)  
【受講料】 無料  
【申込】 7月5日(金)～7月19日(金)

窓口または電話で  
【申込先】 周南市中央町4-10  
周南市学び・交流プラザ  
TEL: 0834-63-1188  
(9:00～17:15 土・日・祝日を除く)